

DOWAS NEWS

2008

Vol11 No.1



駿河湾深層水の利活用について



海洋深層水利用学会

駿河湾深層水の利活用について

－焼津市地域間交流体験施設の整備に関する取り組み－

土屋直一（焼津市経済部地域資源室）

1. はじめに

焼津市は、東京から西へ 193km、名古屋から東へ 173km、京浜・中京地区のほぼ中間に位置し、北側に山稜をはさみ県都静岡市と隣接している。その玄関口として JR 東海道本線「焼津」「西焼津」の 2 駅、東名高速道路には「焼津インターチェンジ」があります。東側は駿河湾に面しており、日本有数の水揚量を誇る焼津漁港を中心に古くから漁業・水産業の盛んなまちとして知られています。

年間平均気温は 16.5℃で、冬季の降雪も稀な温暖な気候であり、市域面積 46.01km²のほぼ平坦な区域に、約 3 万 9 千世帯、約 12 万人の市民が生活しています。

2. 駿河湾深層水関連施設の整備

新焼津漁港（約 36ha）の新たな埋立地では、平成 13 年 9 月に静岡県により駿河湾深層水取水供給施設が移動されたのを皮切りに、県水産試験場深層水水産利用施設（平成 16 年 4 月開設）、本市により駿河湾深層水脱塩施設（平成 15 年 5 月開設）、駿河湾深層水利用促進交流施設（愛称：深層水ミュージアム 平成 16 年 4 月開設）、駿河湾深層水体験施設（愛称：アクアスやいづ 平成 18 年 7 月開業）、地域産物販売提供施設（愛称：うみえーる焼津 平成 19 年 4 月開業）が相次いで設置されました。これらの施設が近接して立地しているのは全国的にも稀であり、海洋深層水関連施設の一大集積地となっています。



脱塩施設



深層水ミュージアム



アクアスやいづ
と
うみえーる焼津

3. 駿河湾深層水地域間交流体験施設（アクアスやいづ・うみえーる焼津）整備への取り組み

（1）経緯

焼津市では、駿河湾深層水を活用した地域活性化を期待し、地域特性を生かした駿河湾深層水の多段的活用方法を検討するなか、新たな利活用の方策として「タラソテラピー」（※1）に着目し、先進地の情報収集、視察を行いました。その結果、それぞれの地域において住民の健康増進、他地域からの入込客数の増加など、地域の活性化に大きく寄与していることが確認されました。また、地域経済界におけるタラソテラピー施設の導入の機運の高まりなど、整備のための諸条件が徐々に整う中、財源確保などの課題も克服できたことから、平成14年度からタラソテラピー施設の整備について検討が開始されました。

（2）事業目的

駿河湾越しに見える富士山や伊豆半島などの景観に恵まれ、駿河湾深層水という表層水とは異なる貴重な海水を体験できることから、「癒し」・「くつろぎ」・「やすらぎ」の場として市民の健康増進と観光客の誘客を図り、交流促進のためのコミュニティの場を提供することを目的としています。

さらに、「アクアスやいづ」と併せて、水産物など市の特産物を販売する施設とその味覚を提供するレストランを複合した「うみえーる焼津」を整備することにより、より多くの観光客の入込みが期待されますので、これらによる経済的な相乗効果を通して地域の活性化を図ることも当該施設の設置目的です。

（3）事業概要

焼津市では、平成14年度にタラソテラピー関連施設の導入に伴う基本的事項を定めた「焼津市タラソテラピーの導入に関する基本構想」を策定、平成15年度には団体関係者及び市民などで構成された委員会組織を設置し、より具体的なタラソテラピー関連施設の内容の検討・協議を行って「焼津市タラソテラピー関連施設基本計画書」を策定しました。

平成16年1月にタラソテラピー関連施設の設計の業者を決める「企画提案競技審査会」により、優先交渉権者を選定し、同年5月に設計業務委託契約を締結しました。平成16年12月に実施設計が完了し、平成17年3月には工事着手、約1年2ヶ月間の工期を経て平成18年5月末に竣工しました。そして、竣工後2ヶ月の準備期間を経て、同年7月19日に「アクアスやいづ」は営業を開始しました。

さらに、平成19年4月25日「うみえーる焼津」が開業。これによりすべての施設整備が完了し、それぞれの施設に多くの利用者が訪れ、賑わいを見せています。

事業費は全体で約21億円となり、各施設ごとの事業費は、「アクアスやいづ」は約15億4600万、「うみえーる焼津」は約3億7800万円、外構工事その他で約1億7600万円です。

（4）施設概要

1) 「アクアスやいづ」 鉄筋コンクリート造3階建 3,481.43㎡

「アクアスやいづ」は、駿河湾深層水を利用したタラソテラピーを行う施設です。1階にはタラソテラピートリートメントを受ける個室を設置。タラソテラピートリートメントは全て、専門のセラピスト（※2）によるカウンセリング・指導により行われ、心身の状態や利用者のニーズに合わせて施術されます。また、同階にはカウンセリングルームも設けられており、厚生労働大臣認定の「健康増進施設」、さらに厚生労働省指

定「指定運動療法施設」として認定されることを目指しています。2階には、20m プール（可動床 0m～1.8 m）、アトラクションプール（ジェット噴流、水流、水温差など）、パブリックプール、タラソパーソナルプール、スチームサウナ、トレーニングルーム、多目的室（フィットネススタジオ）を設置しており、楽しみながら水中運動が行えるよう工夫がされています。また、トレーニングルームと多目的室では、利用者が水中運動と合わせて利用することで、効果的に健康増進を図ることができます。3階には、レストラン、屋上テラス、休憩室、アーユルヴェーダ(※3)、フットケアのエリアを設置しました。タラソセラピーでは、海の恵みを食することも重要な要素となるため、新鮮な魚介類などを中心としたヘルシーメニューをレストランで提供しており、天気の良い日には富士山や駿河湾の眺望を楽しみながら食事ができます。

2) 「うみえーる焼津」 鉄骨造 2階建 1,498.04 m²

「うみえーる焼津」は、市の地域資源である水産物や深層水関連商品等の販売・提供を通じて、魚食やその他地域産物の普及や情報発信を行う施設です。1階の海産物等販売ゾーンでは、焼津の特産であるカツオ、マグロなどに加え、近海で揚がった新鮮な魚介類を主に販売しています。

また、同フロアには駿河湾深層水を使用したミネラルウォーター、水産加工品、塩、にがり、豆腐、菓子類など様々な商品を扱う深層水ショップに加え、市内の各施設の情報提供コーナーも設けています。2階の海産物レストランゾーンでは、地元食材を利用し、それぞれ違う味覚を提供する飲食店舗が2店舗出店しています。富士山や駿河湾、伊豆半島などの風光明媚な景観を享受しながら、新鮮な魚介類や駿河湾深層水などの地元食材を使用した食事が堪能できます。

(5) 施設管理運営

平成 15 年度の地方自治法の改正による指定管理者制度に基づき、㈱マリンタウンやいづを指定管理者として指定し、民間企業の活力を十分に活用することに努めています。㈱マリンタウンやいづは、当該施設の管理運営を行うために地元企業、団体、焼津市等 35 先が出資して平成 16 年 4 月に新たに設立された会社で、開業後の円滑な管理運営業務を行えるよう施設の設計段階から当該事業に参画、市とともに魅力ある施設づくりを担ってきています。

4. おわりに

新焼津漁港内の深層水関連施設が集積するエリアでは、静岡県や研究機関による深層水に関する学術的研究はもとより、深層水の給水事業や地域企業による深層水商品の開発、焼津市が開催する深層水を題材とした一般市民への講座の開催、深層水まつりなどのイベントが行われ、「駿河湾深層水」を中心とした産学官の取り組みにより地域の活性化が図られつつあります。

また、隣接地には県が整備する親水広場の完成も見込まれており、新たな市の魅力あるスポットとして更なる地域の活性化にも期待が寄せられているところです。

- ※ 1・・・タラソセラピーとは、ギリシャ語の「タラソ・海」とフランス語の「セラピー・治療」をあわせた造語で、日本語では「海洋療法」と訳されています。海水や海泥、海藻など、さまざまな海の資源を用いて人間の自然治癒力を高めていく療法のことを指します。この海洋療法は、筋肉疾患や神経系統の疾患のみならず、生活習慣病とも言われているストレスや運動不足等に由来した心疾患や循環器疾患の予防にも効果があることが実証されています。
- ※ 2・・・セラピストとは、専門的な知識及び技能を習得し、利用者にサービスを行う者。それぞれの療法ごとにセラピストがおり、療法ごとに知識や技能の習得する内容が異なります。
- ※ 3・・・アーユルヴェーダとは、サンスクリット語のアーユス(生命)とヴェーダ(科学)という言葉が結びついた造語。インド、スリランカに古くから伝わる伝承医学で、その歴史は5千年前までさかのぼるとされ、世界でもっとも古い伝統医学と言われています。